

筑豊野鳥観察サイト 2012・マニュアル Ver.1.4

情報部@ 

● 0. はじめに：

「筑豊野鳥観察サイト 2012」（以下、観察サイト）にご参加いただき、ありがとうございます。
本文書は、観察サイト調査の概要およびルールを説明したものです（全 3 ページ）。不明のときは、文書末連絡先[8-2]までお問い合わせください。（調査報告[4-4]は必ずメールをご使用ください。）

● 1. 目的：

各地の野鳥観察情報を無理のない一定の方法、様式により、定期的、継続的に収集します。

● 2. 原則：

1. **全観察**：調査中に観察した野鳥[5-14]は、すべて記録します。特異な種・珍種・稀種だけでなく、スズメやヒヨドリ、ガビチョウなどいわゆる普通種、外来種も観察したら漏らさずすべて記録します。
2. **メッシュ**：あらかじめ選んだ一定の区域内で調査します。あなたが指定した調査地域に、約 1km 四方の区域をかぶせてメッシュコード[5-9]を同定しお知らせしますので、その区域内を調査してください。
3. **手順**：毎月メッシュごとに全観察[2-1]し、1 行[4-1]で報告を作成後、情報部へ送信[8-2]してください。

● 3. 作業手順：

1. 参加資格[5-13]を確認のうえ、情報部[8-2]へ参加申し込みをしてください。
2. 調査希望地域の詳細なルートまたは定点を情報部にお知らせください。
3. 情報部との調整[5-16]後、選択された調査区域のサイト名[4-9]、メッシュコード等を通知します。
4. 毎月、1 回またはそれ以上、担当メッシュを調査してください。
5. 調査結果を情報部へ、メールにより遅滞なく報告[4-4]してください。
6. 調査期間満了まで[3-4]→[3-5]を繰り返します。
7. サイト、メッシュの増設を希望する時は、[3-2]へ。

● 4. 報告様式：

1. メッシュまたは調査日が異なるごとに、1 行（記録行の途中でエンターを押さない）で作成します。
2. 各項目間はスペース(空白)で区切ってください。
3. 項目順序や文字など、このフォーマット[4-4]は厳守してください。（自動処理にかけます。）
4. フォーマット：
[メッシュコード]¹ [年・月・日]² [サイト番号]³ [地名(・別名)]⁴ [観察者名]⁵ [観察]⁶ [(備考)]⁷
5. 実例：
5030-3576 2012-06-25 05 飯塚市柏の森 野鳥花子 スズメ 1vc・ヒヨドリ 2c・カワラバト 12f 曇 18℃
6. 第 5 項までは必須。第 6 項は、標準和名（種名。以下、和名）のみ必須、数・観察記号記入は任意。第 7 項は任意。
7. **メッシュコード**：第 1 項。情報部では、お申し込みの調査範囲を確認のうえ、メッシュコード[5-9]を確定し、お知らせします。必須項目です。
8. **年月日**：第 2 項。観察日は、西暦年の年月日に-(マイナス符号)を挟み、月日は 2 桁で記してください。たとえば 2012 年 10 月 5 日調査の場合は、2012-10-05 のようにします。必須項目です。
9. **サイト名**：第 3 項。お申込み後、情報部からサイトごとに識別子として 2 ケタの番号を振り出すので、以後はサイト名称（例：サイト 05 などのように称する）として使用します。サイトというのは、単独または互いに隣接するひとまとまりの調査メッシュことです（[5-1]参照）。必須項目です。
10. **地名(町丁)**：第 4 項。調査メッシュの地名です。移動により複数になるときはスタート地点の地名とします。正しい町丁名称（通称、俗称は不可）を市(区)町村から表記します。必須項目です。山地・

池沼・河川・公園・施設名等の別名は町丁名称の後ろに・(中点)を置いて記してください。任意です。

11. **観察者名**：第5項。サイトの調査担当者（以下、担当者）名であり、調査した人のフルネーム（実名）です（代行者のときはその氏名）。担当者は1名です。必須項目です。
12. **観察**：第6項。野鳥[5-14]の和名と観察記号[5-5]です。区切り記号は・(中点)。任意記入で、観察記号、数、雌雄、繁殖コード(<http://goo.gl/Jo2Ev> 参照)等を和名に続けて記してください（半角英数字）。種の記入順序は任意です。重複のないリストにまとめてください。亜種まで識別した時は、和名を（ ）で囲んでください。本項は、和名のみ必須、その他は任意記入です。
13. **備考**：第7項。以上6項目以外の情報。識別根拠、気象、観察時間等。備考記述では簡潔を旨とし、なるべく空白（全角、半角）、中点（・）は使用しないでください。本項の記入は任意です。

● 5. 詳細：

1. **計画の階層構造**：[筑豊野鳥観察サイト>調査担当者>サイト>メッシュ]であり、4者の関係は入れ子（階層構造）になっています。もっとも大きな入れ物は「筑豊野鳥観察サイト：情報部」、その中に「担当者」、その中に「サイト」、さらにその中に「メッシュ」が入ります。このため、担当者は複数のサイトを持つことができ、1サイトの中には複数のメッシュを設定可能です。
2. **不備**：報告様式の必須条件を満たしていない観察情報は、筑豊野鳥観察サイト記録では扱えません。ただし、可能な場合は従来通り鳥信記情報とします。
3. **問い合わせ**：ご報告に疑問や不足があるときは、情報部から担当者へ問い合わせをすることがあります。悪しからずご了承をお願いします。（はじめは、慣れないため行き違いが多発すると思いますが、寛容をお願いいたします。）
4. **観察地点**：野鳥の位置に関係なく、そのメッシュ内の現在地が観察地点です。よって野鳥がメッシュ区域外にいても記録可能です。
5. **観察記号**：c:地鳴き(さえずりを除く声全般)、s:さえずり(下記項目[5-6]参照)、v:視認による観察(飛翔を除く)、f:飛翔、♂(オス)、♀(メス)。観察記号・数の記入は任意です。独自記号は使用不可。
6. **さえずり s**：観察記号の内 s（さえずり）は、「フィールド・ガイド日本の野鳥 増補改訂版」（財・日本野鳥の会）の「声」らんに「さえずる」「さえずり」等とある種のみ（ただし、セッカのヒッヒッ、チャッチャッは s）とします。本書を閲覧できない方は、情報部[8-2]へお問い合わせください。
7. **ご報告**：調査結果のご報告はメール[8-2]だけを受け付けます。口頭（電話）、手書き、FAX 等の手段は処理の都合上、受理できませんのでご注意ください。
8. **報告メール標題**：#[年]-[月]サイト[番号]・[担当者名]。[番号]には調査地のサイト番号を当てはめてください。例 #2012-04 サイト 05・野鳥花子（先頭#は、報告メールの識別用です。報告メール標題の様式を使わない場合でも、先頭の#マークは必須です。）
9. **メッシュとは**：国が策定した基準（世界測地系）によって全国を約 1km 四方に区切ったもの。各メッシュはメッシュコード（コード番号）により弁別します。基準地域メッシュとも言い、国が法で規定し JIS 規格にもなっています。本調査では、調査区域の場所指定および調査範囲として使用しています。他の数字列と区別するため、例えば@5030-3576 のように@マークを前置し、「世界測地系によるメッシュコード」として表すことがあります。
10. **メッシュ同定**：地図上のメッシュ位置によりメッシュコードを確定することをいいます。情報部で同定しお知らせします。メッシュ位置の確認では Geocode Viewer（<http://goo.gl/UYeJ>）を参照（世界測地系）してください。他の同種サイトでは必ずしもメッシュの互換性が保証されませんのでご注意ください。
11. **無保険・免責**：本調査は保険の対象になりません。身体、気象状況、地況等に留意し、調査の際には決して無理をせず事故にあわないよう、安全を最優先にじゅうぶんご注意ください。本会および関係者は、本調査に係わる事故その他の不利益について免責とさせていただきます。
12. **報告の取扱**：特別の事情を除き、報告を削除したり内容を伏せることはできません。報告は、本会会報、公式ウェブサイト等により一般に公表されます。報告の取扱、利用は、本会にご一任ください。
13. **参加資格**：本会会員のうち、観察サイト・マニュアル(本文書)のすべてに同意のうえ、観察サイト

に参加を申し込んだ者。調整[5-16]や報告[3-5]のためにメールが必須です。参加取り消しや調査中止等は、[8-2]へいつでもできます。

14. **野鳥とは**：野外において、人の管理下でない状態で、自活していると思われる、鳥類。（本条件を満たす外国産鳥類も含まれる。）
15. **報告訂正**：報告の明らかな間違いは、情報部で訂正しますが、その旨の通知は必ずしも行いません。
16. **調整**：観察サイトへの参加申し込み時、新規のサイト・メッシュ増設の際には、メッシュ位置を決定するため、あらかじめ情報部との間で調査地設定の摺り合わせ・調整[3-3]を行います。

● 6. してください：

1. **現場で記録**：手帳・フィールドノートなどを持参し、観察の都度記入してください。
2. **特異な観察**：場所、季節により特異となる観察、珍種・希少種、姿での識別が困難な種、筑豊初記録の種等では、説明や識別根拠の記述が必要です。備考に、詳細な特徴や様子など観察状況を具体的・客観的に記すようにしてください。
3. **誠実な報告**：報告には不正確な情報（「かもしれない」「だろう」、自分の観察ではない等）は決して入れないようにしましょう。また、少しでも疑問を感じたら、勇気を持ってその観察は報告から外してください。誠実なご報告を期待しています。
4. **観察時間**：目安として、観察定点においては10分またはそれ以上、コースなどを移動する場合は20分またはそれ以上、ともに専念し集中的に観察してください。
5. **メッシュ内観察**：必ずメッシュ区域内で調査してください。移動による調査（散歩、ラインセンサス等）においては、メッシュ地図を参考にあらかじめメッシュの入り口と出口の目印を確認しておきましょう。メッシュ区域を多少出入りするのはいくらか許容範囲ですが、メッシュ境界からおおよそ100m以上逸脱する時は、メッシュ出口でいったん調査を中断し、メッシュ再入後、再開してください。
6. **調査外観察**：調査地への途上や日常における調査以外の観察も、報告様式[4-4]によって報告することができます。興味深い観察などに遭遇したときはぜひご報告ください。この場合、全観察[2-1]が望まれますが、必ずしも必要ではありません。備考欄には「調査外観察」と付記してください。

● 7. しないでください：

1. **後で記録**：観察をとりあえず記憶しておき、後でまとめたの記録作成は思い違いの元となります。調査中は、必ず観察の現場でメモをとるようにしましょう。（フィールドノートを携行しましょう。）
2. **他人の観察**：観察記録は、担当者ご本人による現場での観察のみとします。他日の観察、伝聞など他人の観察（同行者含む）ほかの間接的な記録（文献、写真等）は決して記入しないようにしましょう。（バードソンと同じルールです。）
3. **同一個体**：複数のメッシュを同時調査する場合、同じ個体（推測含む）が複数のメッシュで観察されたときは、最初のメッシュのみ記録します。
4. **〃不可**：報告では、同内容でも繰り返し符号（〃、々）は使用せず、すべて記入してください。
5. **範囲表記不可**：メッシュ、年月日では、下記のような範囲記入をしないでください。1メッシュごと、または1日ごとに1行の記録をフォーマット[4-4]によって記述します。下記例のような範囲表記は不備[5-2]となります。
 - ✖ 5030-3576～5030-3577（メッシュコード）
 - ✖ 2012-05-05～07（年月日）

● 8. ご連絡先

1. 日本野鳥の会筑豊が主催し、情報部がとりまとめを担当しています。
2. 報告送信先：rideox@gmail.com
3. ご連絡先：080-5255-3118 有働孝士@情報部

(2012-03-12：有働記)